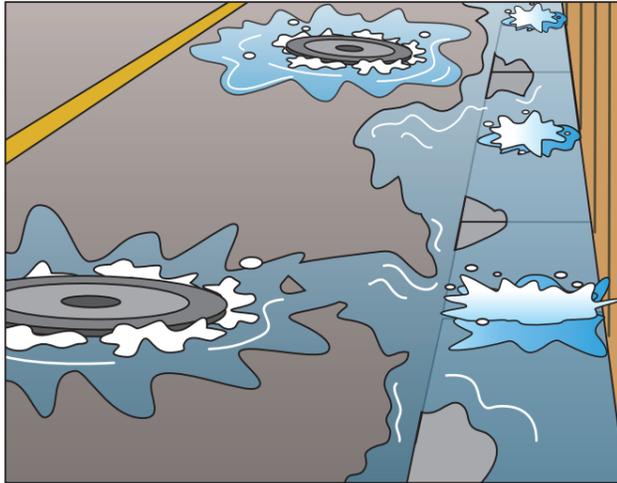


水害について学ぼう

内水はん濫と外水はん濫

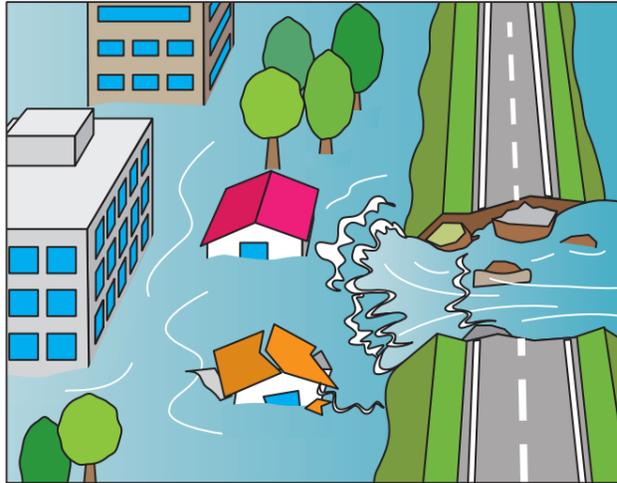
大雨や台風などにより、様々な水害が発生します。水害は「内水はん濫」と「外水はん濫」の大きく2つに分類されます。

内水はん濫



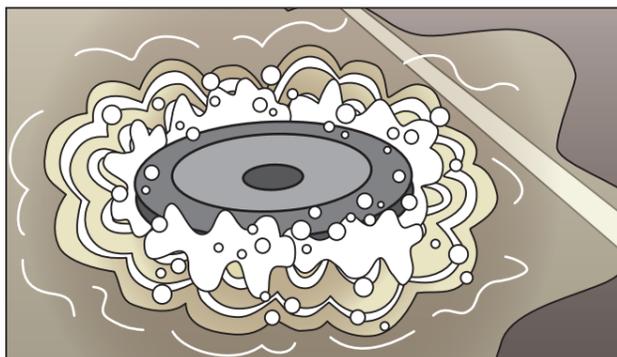
下水道などの排水施設の能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時などに、雨水が排水できなくなり浸水する現象。

外水はん濫(洪水)



大雨で川の水位が上がって、堤防の高さを越えたり、堤防が壊れて、水があふれる現象。

内水はん濫が起こったら...



降った雨が自然に川へ排水できなくなるため、水路があふれ出したり、下水道のマンホールの蓋から下水が噴き出したりします。



アンダーパスの冠水により車両が水没するなどの重大な事故が発生します。



家屋の被害では、床下浸水・床上浸水が起こり、流れ込んでくる水は泥水で、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積します。



避難について学ぼう

避難行動の種類

避難とは[難]を[避]けること。指定避難所に行くことだけが避難ではありません。下の4つのような行動があります。

市が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの

- ・マスク
- ・体温計
- ・消毒液
- ・スリッパ



安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊と同じです。事前に確認しましょう。



※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。



※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

屋内安全確保

以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。外水氾濫による家屋倒壊の危険性がないこと。浸水深より居室は高い。水や食料などの備えが十分ある。



避難の心得

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

危険な状況とは

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

屋外での移動は危険です。自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

非常持出品は最小限に！

非常持出品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるように持出品は最小限にしましょう。



徒歩での避難を！

車での避難は、緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。車中泊避難などの場合を除き徒歩で避難しましょう。



外出中の家族には連絡メモを残そう！

外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったような連絡メモを残しておくといいでしょう。



一人暮らしの高齢者などには気配りを

近所に一人暮らしの高齢者や病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。

